序章 本書の主題と藤本仕立店の概要

第一節	本書の主題
$\widehat{\underline{1}}$	問題の所在・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2	本書の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3	本書の構成
第二節	藤本仕立店の概要 8
$\widehat{\underline{1}}$	創業の経緯9
2	定義と業種名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3	事業規模12
第三節	藤本家文書の概要12
$\widehat{\underline{1}}$	創業期の原型的史料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2	仕入・受注・製造に関する史料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3	出荷・販売に関する史料15

小括	3	$\widehat{\underline{2}}$	$\widehat{\underline{1}}$	第二節	(5)	$\widehat{\underbrace{4}}$	3	$\widehat{\underline{2}}$	$\widehat{\underline{1}}$	第一節	補 論 1	小 括 :	$\widehat{\underbrace{4}}$
近代日本の衣服産業史における藤本仕立店の位置づけ	素材不足期の全量商品化――日中戦争勃発から第二次世界大戦終戦まで―― ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	素材自由期の全種商品化――居留地貿易撤廃から日中戦争勃発まで――・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	素材限定期の少種商品化——幕末開港期から日露戦争期まで——	素材からみた近代日本の衣服産業	戦時統制下の拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	居留地貿易撤廃後の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	幕末の開港と衣服産業の成立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	衣服産業成立以前の衣料品生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	衣服産業と裁縫	前近代と近代における衣服産業の概観	- 近代日本の衣服産業史	16	出納・資産に関する史料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第Ⅰ部

藤本仕立店の商品・生産・流通

第一章 生産体制と流通体制

小 括 :	3	$\widehat{\underline{2}}$	$\widehat{\underline{1}}$	第四節	3	$\widehat{\underline{2}}$	$\widehat{\underline{1}}$	第三節	2	$\widehat{\underline{1}}$	第二節	3	2	$\widehat{\underline{1}}$	第一節
				沪				節			節				節
75	材料生地の仕入先	商品の受渡方法と販売地域	史料概要	流通体制70	工場の構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ミシンの種類からみた生産工程	ミシン台数からみた委託生産の拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	生産体制59	ミシンの修理58	シンガー社との契約56	ミシンの導入56	受託工の仕事状況53	通勤工の仕事状況45	史料概要	通勤工と受託工の仕事状況4

第二章 取扱商品の主な形態――和服の商品化

<u>4</u>	3	$\widehat{\underline{2}}$	$\widehat{\underline{1}}$	第一節	第三章	補論	小括:	$\widehat{\underline{2}}$	$\widehat{\underline{1}}$	第三節	第二節	$\widehat{\underline{2}}$	$\widehat{\underline{1}}$	第一節
				節	章					帥	節			節
同業者間の製品補完110	衣料品の多種化要素110	シャツの多種性とその要素・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「大福帳」の取引例と出荷品目の傾向105	商品の多種性とその要素	取扱商品の構成――多種性の要因と意義――	97	95	比較対象としてのシャツ94	陸軍被服廠の夏襦袢88	夏襦袢	柔道着85	比較対象としての海着・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	印袢纏	印袢纏

力 扫 ::		$\widehat{1}$	第三節	2	<u>î</u>	第二節	3	2	$\widehat{\mathbb{I}}$	第一節	補 論 2	小 括 :::	第三節	<u>2</u>	<u>î</u>	第二節
14	特徴	一覧:	戦後『工業統計表』の出荷品目138	特徴	「繊維製品配給消費統制規則」の項目と一覧133	戦時「繊維製品配給消費統制規則」の指定品目133	指示対象特定の試み130	特徴	一覧:	戦前『工業統計表』の出荷品目125	近現代日本で商品化された衣服	120	一九三〇年頃の取扱品目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	製品区分でみる多種性の要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	品目区分でみる多種性の要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	商品の多種性とその要因13

見字ドリニくヌ 監急) 手謂

2	$\widehat{\underline{1}}$	第一節	第 五 章	小 括 :	3	2	$\widehat{\underline{1}}$	第二節	2	$\widehat{\underline{1}}$	第一節	第 四 章	第 Ⅲ 剖
) 繊維産業から衣服産業への進出172) 繊維産業の統制の概要171	即 繊維産業と衣服産業にみる経営体転換	章 戦時経済統制下の衣服産業	164) 個人顧客にみる柔道産業の形成159) 学校顧客にみる柔道教育の形成) 出荷額にみる柔道着の比重	即 柔道着の小売販売圏155) 鉱山との取引とその背景153) 顧客層	即 仕事着の卸売販売圏150	章 一九三〇年代までの販売圏の展開とその背景	「部一戦時体制と衣服産業の再編

2	$\widehat{1}$	第二節	3	2	$\widehat{1}$	第一節	第 七 章	小 括:	2	$\widehat{\underline{1}}$	第四節	3	2	$\widehat{\underline{1}}$	第三節	2
仕事着——厚地既製服——	学生服	主要品目にみる業態	調査書の一例	調査の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	調査類の概要254	統制関連調査の概要	- 戦時経済統制下の業態と取引状況	247	学校の工場化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	協力工場・管理工場・指定工場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	廠外の生産組織	勤労報国隊と学徒動員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	廢内の生産組織242	廠内の生産品目	廠内の生産組織	人事組織

$\widehat{\Omega}$	<u></u>	小括	第二	<u></u>	\widehat{A}	<u></u>	<u></u>	<u></u>	第二	$\widehat{\Omega}$	<u></u>	第一	第八	小括		<u></u>
۷	$\bigcup_{i=1}^{n}$		節	5	4	3	۷	<u>1</u>	節	۷	<u> </u>	節	章	:	4	3
(2) 商業施策	(1) 長期操業の要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5括 長期操業の要因	第三節 戦時経済統制を乗り越えた財源――裁縫業と貸家経営の比重――	(5) 山林·家屋·土地··································	(4) 有価証券・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(3) 預貯金·掛込金··································	(2) 設備	(1) 全体動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第二節 費目の動向	(2) 「棚卸」の構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(1) 「品物直分簿」から「棚卸」へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第一節 「棚卸」の構造と費目	第八章 資産の動向	小括	(4) 柔道着・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(3) 仕事着ほか――既成洋服――
	i	i	:			:								i		
	i	i		÷		i			:	÷						
:	i				÷	i	:	÷	÷	÷	i				i	:
:			:		i		i	i			i	:			i	:
:					i		:	i			i				i	:
:	:	:		:	:	:	:	:	:	:	:			:	:	:
303	302	302	301	295	292	290	289	287	287	286	285	285		277	271	268

終章 近代日本の衣服産業と藤本仕立店研究の意義

節 節	た亍研究の二頁付立と1寸本一元とこ寸する比判
節	先行研究の二項対立と日本一元化に対する批判
<u>l</u>	藤本仕立店から見直す生産体制論310
2	東アジア的視野から見直す衣服文化史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3	衣服産業から見直す在来産業論313
b	4りに

索引 あとがきと謝辞 あとがきと謝辞

- (一) 本書の多くで依拠する藤本仕立店に関する史料 記した。 利用は祥二氏および姫路市史編集室の好意による。藤本家文書からの出典名は主に本文へ記し、引用の場合は注に (藤本家文書)は藤本祥二氏の所蔵にかかるものである。史料
- (二) 史料からの引用文には適時句読点を挿入した。
- がら二○世紀前半の差別的な意味合いでは使用せず、男性工員・男性職工への対語として用いた。 本文の一部に史料で使用されている地名や職業上の地位をそのまま利用した。一例は「女工」であるが、当然な
- 回 『工業統計表』に統一した。 依拠した統計表のうち『工業統計表』は一九三八年まで『工場統計表』であったが、煩雑を避けるためすべて
- £ sinbun/)を利用した。 戦前期の新聞はすべて神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」(http://www.lib.kobe-u.ac.jp/ 衣糧廠関連の史料は多くがアジア歴史資料センター(JACAR)「デジタルアーカイブ」(http://www.jacar.go.jp/)、 利用した戦前期刊行物の一部は国立国会図書館デジタルコレクション(http://dl.ndl.go.jp/)、陸軍被服廠・海軍
- (六) 衣服のうち商品となったものをとくに衣料品と記した場合がある。
- 七 衣服。下体衣(下半身衣) は轡部を覆い、上端は乳頭を覆わない衣服。これは腰衣と脚衣とに分かれる。下体衣の 衣服の説明は大丸弘の説を念頭においた。上体衣(上半身衣) は胸部と腹部を覆い、裾は轡部の全部を覆わない
- うち、 した。以上の区分にもとづき、 と下体衣に大別できる。さらに本書では、上体衣のうち腹掛や前掛などを胴体衣、手甲・半手覆などを手腕衣と称 に基づけば、藤本仕立店が約半世紀間に販売した仕事着、柔道着、学生服、足袋などのさまざまな衣料品は上体衣 和服論の観点から一 腰衣は両足が一本の筒に入る衣服。脚衣は両足が別々の筒に入る衣服(以上、大丸弘「西欧型服装の形成 ―」『国立民族学博物館研究報告別冊』四号、一九八七年二月、三二・三三頁)。この区分 本書は、衣服を主として上体衣と下体衣とし、衣服産業をそれらの製造販売と仕入

販売を担う部門と規定する。

八 アジアの多くの民族衣装は、西欧と同じ前方開放様式を採りながらも帯や紐で留め、非密着性・非密閉性と関わっ ン(最近ではファスナー)で留める(中国の旗袍はこの部類に入る)。これに対し、漢服、和服、チョゴリなど、東 スーツやコートのような外衣は前方開放様式をもっている。この様式は密着性を高める手段であり、これらをボタ 西欧では一四世紀にテーラリング技術の基礎が形成され、密着性・密閉性の強い衣服が作られるようになった。

ている。西欧型の前方開放様式は「密着開放衣」と呼ばれる(以上、大丸「西欧型服装の形成」五三頁)。

xiii

本書の主題と藤本仕立店の概要

第一節 本書の主題

と展開、そして戦時統制下における衣服産業部門の再編と同店の対応である。対象とする時期は一九世紀末の創 服産業 本書は、兵庫県姫路市の藤本家文書を手がかりに、近代日本経済史の発展段階のなかで特異な位置を占めた衣 (裁縫業)の動向を詳しく述べる。その主な内容は、藤本仕立店の設備・規模・労働力、取扱製品の構成

業から終戦後の廃業までの約半世紀である。

系企業ではギャップ(GAP)やフォーエバ 国籍企業の典型例として知られ、経営組織や生産組織は地球規模に拡大している。日系企業ではユニクロ、 衣服産業が繊維産業のなかで確固たる地位を占めたのは一九七○年代のことである。現在のアパレル産業は多 ー・トゥエンティ・ワン (Forever 21)、スウェーデン系企業では 米国

チ・アンド・エム(H&M)、などがあげられる。これらの企業は自社工場と委託工場のいずれか、またはいずれ

をも海外にもっていることが多い。

これに対し、本書の扱う二〇世紀前半日本の衣服産業では生産組織が各地域内に留まる傾向が強かった。 組織

の範囲が一 国規模に拡大したのは戦時経済統制期である。この拡大を本書は藤本仕立店の動向をもとに描く。

(1) 問題の所

たため、衣服の呼称は二〇世紀前半の公的資料である『工場統計表』でもほとんど細分化されなかった。 (4) 織物の呼称も定着する傾向にあった。日本も例外ではない。他方で衣服は徴税対象にならず商品化も進まなかっ 古代から、織物が徴税対象や交易・貿易対象となった地域では、それら製品や織機の標準化が行なわれ、各種

退を経験した。急速な産業化は用語の整理や定着を難しくし、この分野の学術研究を混乱させてきた。 日本の衣服産業は、一九世紀中期から一九七〇年代頃までの約一世紀間に、めまぐるしく商品化、産業化、 衰

題が不明確なままである。研究が活発になったのは一九七〇年代以降であるが、いずれも短期的な視野で生産合 たとえば、衣服とは何か、衣服産業とは何か、衣服産業にはどのような部門が含まれるか、等々の根本的な問

理化や輸出化を中心に論じる一方、戦前期衣服産業の位置づけを共有しなかった。

康子は戦前期の繊維産業に占める衣服産業の低位を根拠にして次のように述べた。「アパレル産業という産業の 衣服産業の位置づけは、戦前期にその成立を認めるか認めないかという点ですでに両極に分かれている。

他方、 業などと呼ばれることもあったが、衣料製品は縫製品製造業の一つで産業としては成り立ってはいなかった」。 名称は、日本では一九七〇年代から正式に使用されるようになった。それまでは、衣服産業、または既製服製造 中込省三は戦前期からの連続的な側面を重視し、「衣服産業の中心は衣服の工業生産と流通にあるが、そ

れは衣服の既製化の普及によってはじまった」ととらえ、「わが国における衣服の既製化のはじめは、 急速な産業化は位置づけだけでなく用語の混乱も生じさせた。幕末開港期以降に輸入された衣服や裁縫技術は、 明治初年

すなわち衣服形態のもつ不定性と衣服用語のもつ溶解性(フュージョン性)も衣服を学術的に考察する障壁となってなわち衣服形態のもつ不定性と衣服用語のもつ溶解性(フュージョン性)も衣服を学術的に考察する障壁となっ アイロン、ボタン、ポケット、テープ、カフス、ギャザー、ダーツなどである。そのうえ、衣服自体の曖昧さ、(8) 外国語直訳の新造語という方法を採らず、カタカナ外来語として理解される傾向が強かった。たとえば、ミシン、

以上のように、 衣服産業は二〇世紀を通じて拡大してきたにも関わらず、今なお研究史上で不安定な位置にあ

りつづけている。

済を通じて軍部から受託生産を担う過程を詳述した。ただし、この研究成果を直ちに一般化することはできない。 的な背景を同書だけから知ることはできない。 ほぼ重なり、分析対象とする時間幅は狭い。したがって、二〇世紀前半の衣服産業の示す製品の多様化や社会史 ムーズに乗り越えた特殊な事例だからである。また、佐々木商店が衣服産業へ進出した時期は戦時経済統制期に 山崎・阿部が分析の対象とした佐々木商店は、陸軍被服廠による指定工場化を通じて戦時経済統制を比較的ス このような研究状況のなかで、 山崎・阿部は一九二〇年代・三〇年代に備後産地の綿織物業者(佐々木商店)が衣服産業へ進出し、 山崎広明・阿部武司は、この産業を文献史料に基づいて初めて詳しく取りあげ

返し直面し、佐々木商店とは対照的な条件で営業を続けた。 本書の取りあげる藤本仕立店は、二〇世紀の衣服産業の拡大を如実に示しながらも、 材料生地の配給途絶に繰

(2) 本書の課題

序章 徐々に衣服は商品化されていき、二〇世紀前半になると衣服産業は急速に展開した。二〇世紀前半は前近代から 九世紀前半までの日本で、 ほとんどの衣服は自家消費目的 (非商品) で調達されていた。 同 .世紀

引き継がれた自家消費用の衣服生産と、近代になって勃興した販売用の衣服生産が併存した。双方とも衣服

態は同じで、前開き形式で紐や帯を腰に締めるもの(前方開放衣)が中心であった。

て近代衣服史を述べてきた。しかし、「販売目的の和服」には注意を払っていない。その隙間を埋めるために、 これまでの衣服文化史や衣服産業史の研究は、「自家消費目的の和服」から「販売目的の洋服」への展開とし

本書は和服の商品生産に注目する。これが一つ目の課題であり、主に第I部第二章・第三章で述べ

して製造販売することから始まった。二〇世紀転換期になると、自家消費用に生産される衣服と類似のものを商 補論1に詳述するように、近代日本の衣服産業は、一九世紀中期にスーツや軍服などの毛織物製衣服を商品と

よって経済統制が強化され、その影響から、糸・生地・衣服という衣服産業に関わる全段階が仕入・製造・販売 品化する段階に進み、生地の種類は毛織物以外に綿織物や絹織物などへ広がった。戦時期になると材料不足に

面で政府に管理された。

制のもとで、どのような製品を取り扱ったかを明らかにする。これが二つ目の課題であり、本書の多くの箇所 商品化の比率が高まる二○世紀前半の半世紀に、姫路市の小規模裁縫業者である藤本仕立店がどのような経営体 この段階で自家消費用 (非商品) の衣服生産は原則として困難となり、衣服商品化の比率が高まった。 本書は

本国政府が白書や報告書でアパレル産業という呼称を正式に用いたことを受け、同年代にアパレル産業が成立し そして、第三の課題は衣服産業の成立時期の検討である。前にふれたように、鍜島康子は、一九七〇年代に日

たとえば第Ⅰ部第一章~三章、および第Ⅱ部第四章・六章・七章で述べる。

立していたという反論が成立する。また、戦前期衣服産業を否定する点で鍜島と同じ立場にある木下明浩は 裁縫業」と称す部門を設けている点をふまえると、政府の認知を産業化の指標にする以上、 しかし、戦前の『工場統計表』『工業統計表』をはじめとする統計類において日本帝国政府が 戦前に裁縫業が成

な時期であった。

観する。

第Ⅱ部

「戦時体制と衣服産業の再編」

衣服 確認できる。 パ レ 既製化の三点に求めた。 ル 産業の成立を一九七〇年代前半に想定し、 衣服産業の成立時期は、 しかし、 本書が示すように、これら三点は早ければ一九世紀末、 その規定の是非も含め、終章で再び検討する。 成立根拠を大量生産 一、大量 重販売体. 制 0 確立、 全国 遅くとも戦 市 場 特期に 成

3 本書の

章 論2では、 グ・テール論の観点からとらえたのが第三章「取扱商品の構成」である。 0 売の仕組みを明らかにする。 小売店の販売戦略として近年注目されてきたが、二〇世紀初頭の実店舗でも確認されることを明らかにする。 夏襦袢を取りあげた。また、生産した衣服(または広く衣料品その他) 本書は藤本仕立店の経営動向を構造と展開に大別し、二部構成とした。 取扱商 の第一章「生産体制と流通体制」では、 戦前期衣服産業が総体としてどの程度まで衣服を商品化したかを統計類における項目名の推移から概 品品 の主な形態」である。 同店や受託工がどのような衣服を生産したかを衣服形態から明らかにしたの 姫路市役所 生産財の導入と配置、 (姫路消防組) の印袢纏、 通勤工と受託工の作業内容、 がどの程度に多様化してい ロング・テール論は現代のオンライン 藤本仕立店特製の柔道着、 第Ⅰ部 「藤本仕立店の商品 製品 たかを口 陸軍: 0 生 出 |被服廠 が第二 荷 産 補 販 流

たる時期 それらの ĺ 販売地域や顧客層をどのように開拓 第四章 需要拡大と供給拡大が同時並行に進展し、 九三〇年代までの)販売圏 は第Ⅰ部よりも時間的経緯を重視しつつ経営動向を論じる。 0 展開とその背景」 取引関係を継続させたかを論じる。 新産業たる衣服産業を突き動かした、 は仕事着、 柔道着、 創業から一九三〇年代に 学生服を取りあげ、 ιV わば自由

主

一義的

同

.店が

埋めるために、本書は一九世紀末から約半世紀にわたり兵庫県姫路市で仕立業を営んだ藤本家文書の全容解明を 近代日本の衣服産業は急速な産業化と衰退を経験したためその研究はいまだ十分に進んでいない。その空白を

めげずに文書を大学院宛てにお借りして再撮影をしたが、その後の整理作業は思わしく進まなかった。 頼されて「大福帳」を中心にマイクロ撮影したが、現像所のミスで一二、〇〇〇枚のネガが真っ白になっていた。 経済史』ですでに述べた。同家文書と知り合って二〇年近い歳月が経つ。二〇〇〇年の夏、姫路市史編集室に依 会社史がいくつか残されたに留まる状況のもとで、私が藤本家文書と巡り合った経緯は前著『ミシンと衣服の

たのを知ったのは、廃棄後三か月ほどが過ぎた頃だった。 示板を見ないでいた。マイクロ・リーダーの傍に置いていた二○本のリールが整理業者によってすべて廃棄され 印刷し、自宅へ持ち帰って史料解読作業とデータ処理に没頭した。そのため設備や備品の整理を予告する学内掲 しく、そわそわしていた。私は大学院のマイクロ・リーダーを使って、ある程度まとめてマイクロ・フィルムを 当時の大阪市立大学は経済研究所を廃止し、独立法人化に向けた動きもあり、空部屋や空教室の整理が慌ただ

繁に史料を貸与して頂けるようになった。二〇〇三年に修士号を取得して以来、史料をお借りするたびに祥二氏 詰まるところ原史料をお借りした方が早いと考え、これまでの経緯を現当主の藤本祥二氏に話したところ、 再認した

から食事を御馳走していただくようになった。私はその都度、新しい論文を持って行こうと思い、 調査の励みに

この二〇年間、祖父政吉氏の人物像や仕立店の具体像を惜しむことなく祥二氏は話して下さった。 出を話して下さった。姫路城が改修されてからは、城の夜景を見ながら祥二氏と食事や談笑をするようになった。 は一九九○年代に昆明市へ旅行された際の写真をたくさん取り出され、同市石林の観光をはじめいろいろな思い 一○一二年、私は中国雲南省昆明市出身の蔡蕾と再婚し、その報告を兼ねて一緒に藤本家を訪問した。 祥二氏

製して衣服を作ること、すなわち衣服裁縫のことであって注文の有無も程度も問わないし、一九世紀開港地の テーラーたちは注文服だけでなく既製服も広く取り扱っていた。藤本家文書に出会って以来、私は議論を育める する質問やコメントを受けたり、テーラーかと勘違いされたりした。本論にも述べたが、仕立とは生地を裁断縫 日本史学や経済史学の学会や研究会の報告では、題名に裁縫業や仕立業を冠しているにも関わらず、 織物に 関

研究者に出会えなかった。そして、学会から離れた。

この時、二〇世紀前半日本の工業化の根元には、一九世紀後半と同様に外国の機械や技術が強く影響したのだと たと思う。その史料は一九四〇年に同家が所有していたミシンの一覧で、製造会社はすべてシンガー社であった。 藤本家文書の整理や読解を続けるなかで一番驚いたのは、たった一枚の史料であった。二〇〇七年のことだっ

というべき、外国からの独立を前提にしながらも外国からの影響に言及しない癖が散見されるようになった。 一九九〇年代から日本経済史研究は、 研究者たちは、 いとも簡単に自分の親を忘れるらしい。その意味で最近三〇年間の日本経済史研究に躍 外国人と内国人が混在的だった近代化像を無視し、いわば国風経済史観

はない。藤本家の所有ミシン一覧からは、それまでに読んだ日本経済史分野の論文や著書のすべてを超える衝撃

を受けた

製ミシンは地球規模で販売され、世界中の良妻賢母像、学校教育、衣服文化、衣服産業に影響を与えた。それら の調査に没頭して私は論文を書きまくった。その成果が一冊目の『ミシンと衣服の経済史』(思文閣出版、二〇一 これを機に、私はミシンの世界的普及と各国衣服産業の展開について調べた。二〇世紀転換期頃にシンガー社

じっくりと聞いて下さった。藤本仕立店を主題に二冊目の単著を書くよう勧めて下さったのはほかでもない本多 私が大阪経済大学日本経済史研究所に勤務していた頃、所長の本多三郎先生は私のミシン調査の成果を毎週

先生である。

四年)になった

て、直後の懇親会で二冊目は藤本仕立店で書こうと本多先生が念を押して下さった。 究所の経済史研究会で評者の阿部武司先生(国士舘大学)と谷本雅之先生(東京大学)が「二冊目を期待」と仰っ 『ミシンと衣服の経済史』の書評をして下さり、口頭報告ではこれが初めての書評となった。当日、 〔京都大学名誉教授〕は、今後も精力的に研究を続けるよう励ましてくださった。九日後の一一日、日本経済史研 二〇一五年四月二日に京都大学の社会経済史・経営史ワークショップ(現史的分析セミナー)で渡邊純子先生が 堀和生先生

の紀要論文に発表していった。提出のたびに山本正先生は細かく原稿をチェックして下さった するあらゆる草稿を搔き集めた。それらを主題ごとに分割し再構成した上で、当時の勤務先である大阪経済大学 この二つの書評会を機に、私は修士課程と博士課程の間に書き溜めた雑文や未刊行原稿など、藤本家文書に関

そして藤本家文書の関係を常に確認する重要性を教わった。堀先生からは、同一部門の研究者がいない主題を研 を務めて下さった。 二〇一六年一月、社会経済史学会近畿部会・経営史学会関西部会主催の合同合評会でも渡邊先生が司会と評者 渡邊先生の感想や助言は自分の研究の立場を振り返らせられるもので、ミシン、

夫氏はミシン図録や繊維辞典など、

り合った長島修先生(立命館大学名誉教授) しばしば気が滅入りそうになったが、堀先生を思い出すと元気を取り戻せる。また、史的分析セミナーで知 研究自体を続ける意義について話していただいた。大学院を修了してから非常勤講師が からは製鉄業一筋の研究姿勢に元気づけられている。長島先生は社会

経済史研究会を今でも主宰され、しばしば報告の機会を下さっている。

信君 で大きな自信につながった。 意見交換をした。彼との会話がいつも盛り上がることは、非常勤という立場から専門ゼミを持てない状況のなか .研究会や史的分析セミナーをつうじて、当時京都大学大学院経済学研究科の博士課程に在籍していた見浪. (現桃山学院大学) と知り合い、互いの自宅が近かったこともあり、 研究状況や日本経済史像について頻繁に 知

んとの会話が弾めば、今まで研究を続けてきたことが報われた気持ちになれた。学会では得られない達成感であ 合い、近代日本の衣服変容についてさまざまな角度から議論を交わすようになった。見浪君や尾崎さんや安城さ 二〇一七年には尾崎智子さん(追手門学院大学学院志研究室)、二〇一八年には安城寿子さん(阪南大学)と知り

メリカ服飾社会史研究会に参加させていただくようになった。 幾度となく交換していただいた。また、二〇一九年二月からは濱田雅子先生(元武庫川女子大学)の主宰されるア この一〇年間ちかく、高橋晴子先生(元大阪樟蔭女子大学)とは直接や電子メールで研究内容や衣服史の議論を

や複写依頼に並々ならぬ便宜を図っていただいた。坂上茂樹先生 の閲覧に便宜を図っていただいた。大阪産業大学綜合図書館の方々には図書資料の閲覧はもとより、 文献関係でお世話になった方々や諸機関も明記しておきたい。姫路市市史編集室の方からはたびたび貴重文献 (大阪市立大学)やアトリエそだ代表の 田好

図書館に置かれていない貴重書を提供して下さった。桃山学院史料室の玉置

栄二氏は自彊学院に関する文献を提供して下さった。講道館図書資料部の森田貴久子氏は戦前期講道館の他流稽 344

古に関する情報を教示して下さった。

年した。しかし、基祿は「せっかく乗った船、気の済むまで乗れ」と博士課程の進学を快諾してくれた。 府立大学経済学部の入学から満期退学までの八年間、放蕩に放蕩を尽くした。市立大学の修士課程でも一年間留 めり込むことができた。 「とにかく応援する」と微笑んでくれた。両親の言葉で私は精神的に吹っ切れ、 修士課程進学以来、私の学業を長期にわたり精神的に支えてくれたのは父の基祿と母の壽子である。 博士課程では史料調査に一層の 私は大阪

た瀬戸口明久君(現京都大学人文科学研究所)は今でも食事会と称して、伊澤君と一緒によく餌づけをしてくれて 喋るので大学院生や先生から台風や猛獣と言われていた。そのなかで伊澤正興君(現近畿大学)は私の沸騰した 議論を最も頻繁に聞いてくれ、程良く風力や風速を調整してくれた。私の博士課程修了直前に市大に勤務してい 研究の支えとなってきたのは、個人的にお付き合いをしている研究者のおかげでもある。私はあまりにもよく

物リメイクのドレス類が並んでいる。また、土と食材と効用の知識を有機的に繋げて実に多彩な料理を作ってく いま私には二人目の妻蔡蕾がいる。部屋では本縫ミシンとロックミシンが賑やかに動き、旗袍、アオザイ、着

れる。不安定な家計収入でも日常生活を楽しく過ごせるのは妻のおかげである。

はさまざまである。家庭を築いた女性もいれば、何らかの事情で家庭を築かない(または築けない)女性や、 を踏んできた。そのような女性たちの一部に、藤本仕立店のような裁縫業者がミシン貸与や技術伝授などをつう で家族や家庭を失った女性もいる。 これまでの恋人たちと同様に彼女の人生にもいろいろなことがあった。近現代史を振り返っても、女性の人生 しかし、どのような人生を歩もうと、 世界中の女性たちは家や工場でミシン

じて媒介者となり、衣服産業や衣服文化を突き動かした点を想像して本書を捉え直していただければ、新しい本

書の読み方が出てくるはずである。

と初校は大幅にランクアップできた。 なみさんからは読み応えや論旨展開の点から丁寧な助言や感想をたくさんいただき、とくに校正前の最後の修正 本書は大阪市立大学経済学会木本基金から出版費用の一部を助成された。思文閣出版の田中峰人さんと中原み

二〇一九年五月一日

岩本真一

索引

※藤本政吉をはじめ、藤本家に属する人物(吉平、嘉吉、春治、常、祥二、 弥栄、ます、ユキ)は索引の対象としていない。

b	う
明石歓太郎(明石商店) 261	植村久五郎 25
秋田県師範学校 246	宇治川水電 294
明延鉱山 149. 154. 166	
浅田芳朗 236, 237, 244	え
旭巴被服 174	エイチ・アンド・エム(H&M) 3
朝日頼之助 262, 266	越後屋商店 208, 261
安師国民学校 242, 247	延喜式 22
阿部磯吉 44-46, 49, 50, 53	エンパイア社製(ミシン)95種 64
阿部商店 287	+\
安保萬助 151, 152	お
有馬農林学校 159, 161, 162	扇谷三太郎商店(富山市袋町) 276
有本ヌイヤ(有本キク、有本甚之助)	大倉組 25
263, 267	大蔵省 22
(,)	大阪府第一女子師範学校 247
V .	大阪府大阪陸軍被服廠学校工場 247
井垣呉服店 113	大塩善次郎 10, 12
生野街道 153	太田垣商店 266
生野鉱山 149, 153, 154, 166	岡田熊一郎(岡田ゲートル工場) 261
生野鉱山用務係 118, 119, 154	岡本呉服店 113
生野消防組 152	岡本仕立店 113
石井金子工場 264	岡山洋服組合 27
石橋正二郎 8,9	岡山洋服商組合 27
市岡工場 69	尾崎兄弟商会 261
市岡中学校 157	織部司 22
伊藤長平 16,74	か
伊藤速雄 269, 270	大 <u>安</u> 子相序 200 005 000 010 011
伊藤萬商店 202, 204, 208, 209, 211, 212	海軍衣糧廠 228, 237, 238, 243, 244
糸吉呉服店 9	第一海軍衣糧廠 236, 238
糸所 22 190	第一海軍衣糧廠品川本廠 236 第一海軍衣糧廠藤沢支廠 236
「糸配給統制規則」 180 稲田屋 71.72	第二海軍衣糧廠縣//(文献 250 第二海軍衣糧廠
稲田屋 71,72 井上清商店 269	
井上東吉(井上東商店) 264 264	148, 226, 229, 237-239, 241, 242 第二海軍衣糧廠岡山支廠 226, 244
井野林吉 53-55, 75	第二海軍衣糧廠與四工文廠 220, 244 第二海軍衣糧廠姫路本廠
大野 林 百	225, 227, 236, 237, 242, 244, 245, 247
岩宮良造 151, 152, 157	[海軍衣糧廠処務規定] 237
口口区地 151, 152, 157	「海軍衣糧廠制定の件請議 239
ļ	1757年 とい 単月以中4万0~7 1 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月

「海軍衣糧廠ノ支廠ヲ置ク地、『	平称 及 分堂	神戸電気鉄道 29	13
事項	237	神戸電燈 29	
「海軍衣糧廠ノ所属及所在地並ニ		神戸洋服受託工業組合 24	.3
ク各部	236	後宮職員令 2	21
「海軍衣糧廠令」	236, 239	小塚呉服店 11	
「海軍衣糧廠令ヲ定ム	239	小西商店 269. 27	0
海軍所	25	小林仕立店 11	3
「海軍内令」	240	小松宮彰仁 16.	2
柿久合資会社	208	٠	
片倉製糸工場	238	さ	
神奈川県海軍被服廠学校工場	246	阪井康七商店 261, 269, 27	0
神奈川県女子師範学校	246	坂千秋 159, 257, 259, 271, 27-	4
神村徳太郎	214	佐々木商店(佐々木家) 5,175,19	3
亀井運送店	73	佐竹源助 74,7	5
関西学院消費組合	157	産業分類改訂 14	2
官設鉄道山陰線	72	三十四銀行 293, 29	4
関東大震災	290	三十八銀行 293, 29	4
ŧ		三田中学校 155, 157, 159, 161, 16	2
· ·		山陽醬油 29.	
「企業許可令」	186, 216	山陽鉄道 7.	'3
「企業整備令」	186, 216	山陽電気鉄道 29	4
鬼怒川水電	293	三和毛織 24	5
ギャップ(GAP)	3		
共同信託	294	L	_
		G H Q 24	
共同信託	294	G H Q 24 敷島紡績 17.	2
共同信託 く 宮内省御料局	294 153	GHQ 24 敷島紡績 17 自彊学院 15	2 7
共同信託 く 宮内省御料局 内蔵寮	294 153 22	GHQ 24 敷島紡績 17 自彊学院 15 島村商店 11	2 7 2
共同信託 く 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠	294 153 22 222, 227	GHQ 24 敷島紡績 17 自彊学院 15 島村商店 11 しまや足袋 9, 2	72 77 2 28
共同信託 名 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府	294 153 22 222, 227 238	GHQ 24 敷島紡績 17. 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20	72 77 72 28 90
共同信託 〈 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎	294 153 22 222, 227 238 262	GHQ 24 敷島紡績 17. 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29.	72 77 .2 28 00 03
共同信託 名 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府	294 153 22 222, 227 238	GHQ 24 敷島紡績 17. 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29. 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24	2 57 2 8 9 9 9 9 7
共同信託 〈 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎	294 153 22 222, 227 238 262	GHQ 24 敷島紡績 17. 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29. 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18.	2 57 2 8 9 9 9 9 13 17 13 12
共同信託 く 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け	294 153 22 222, 227 238 262 25	GHQ 24 敷島紡績 17. 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29. 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18 商工省令第六二号 17	22 37 22 28 30 33 37 32 79
共同信託 〈 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道	294 153 22 222, 227 238 262 25	GHQ 24 敷島紡績 17. 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29. 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18 商工省令第六二号 17 昭和毛糸紡績 29	22 37 22 28 30 33 37 32 39
共同信託 〈 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道 「決戦非常措置要綱」	294 153 22 222, 227 238 262 25 294 243	GHQ 24 敷島紡績 17 自彊学院 15 島村商店 11 しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18 商工省令第六二号 17 昭和毛糸紡績 29 職員令 2	22 57 22 28 90 93 77 82 99 94
共同信託 (宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道 「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒重	294 153 22 222, 227 238 262 25 294 243 劲員実施要	G H Q 24 敷島紡績 17. 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29. 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18 商工省令第六二号 17 昭和毛糸紡績 29 職員令 2 シンガー裁縫女学院 8	22 37 22 88 90 93 37 32 99 94 21
共同信託 〈 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道 「決戦非常措置要綱」 「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒重綱」	294 153 22 222, 227 238 262 25 294 243	GHQ 24 敷島紡績 17 自彊学院 15 島村商店 11 しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18 商工省令第六二号 17 昭和毛糸紡績 29 職員令 2 シンガー裁縫女学院 8 シンガー裁縫女学院 8 シンガー社 15, 26, 33, 43, 44, 58, 61, 62	22 37 22 88 90 93 37 32 99 94 21
共同信託 (宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道 「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒重	294 153 22 222, 227 238 262 25 294 243 劲員実施要	G H Q 24 敷島紡績 17. 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29. 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18 商工省令第六二号 17 昭和毛糸紡績 29 職員令 2 シンガー裁縫女学院 8	22 37 22 88 90 93 37 32 99 94 21
共同信託 (宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道 「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒重綱」 こ	294 153 22 222, 227 238 262 25 294 243 劲員実施要	GHQ 24 敷島紡績 17. 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29. 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18. 商工省令第六二号 17. 昭和毛糸紡績 29. 職員令 2 シンガー裁縫女学院 8. シンガー社 15, 26, 33, 43, 44, 58, 61, 62, 64-66, 68, 132	22 57 22 88 90 93 77 82 94 81 80 22,
共同信託 (宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道 「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒重綱」 こ	294 153 22 222, 227 238 262 25 294 243 動員実施要 243, 245	GHQ 24 敷島紡績 17 自彊学院 15 島村商店 11 しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18 商工省令第六二号 17 昭和毛糸紡績 29 職員令 2 シンガー裁縫女学院 8 シンガー社 15, 26, 33, 43, 44, 58, 61, 62 64-66, 68, 132 シンガー社製ミシン 103 62, 65, 6	22 57 22 88 90 93 77 82 94 81 80 22,
共同信託 (宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道 「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒重綱」 こ 工業組合法改正 18	294 153 22 222, 227 238 262 25 294 243 劲員実施要 243, 245 1, 186, 206	GHQ 24 敷島紡績 17 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18 商工省令第三一号 18 商工省令第六二号 17 昭和毛糸紡績 29 職員令 2 シンガー裁縫女学院 8 シンガー社 15, 26, 33, 43, 44, 58, 61, 62 64-66, 68, 132 シンガー社製ミシン 103 62, 65, 66 11—16 6	22 57 28 80 93 57 52 99 94 21 50 22,
共同信託 宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道 「決戦非常措置要綱」 「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒重綱」 こ 工業組合法改正 工場法 講道館柔道 工部省	294 153 22 222, 227 238 262 25 294 243 动員実施要 243, 245 1, 186, 206 34	GHQ 24 敷島紡績 17 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省 5第三一号 18 商工省令第三一号 17 昭和毛糸紡績 29 職員令 2 シンガー裁縫女学院 8 シンガー裁縫女学院 8 シンガー社 15, 26, 33, 43, 44, 58, 61, 62 64-66, 68, 132 シンガー社製ミシン 103 62, 65, 6 11—16 6 15 6 24—33 62	22 57 22 88 90 33 57 52 94 21 30 22,
共同信託 (宮内省御料局 内蔵寮 呉海軍工廠 呉鎮守府 黒川孫太郎 軍服受託工場 け 京阪電気鉄道 「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒重綱」 こ 工業組合法改正 工場法 講道館柔道	294 153 22 222, 227 238 262 25 294 243 劲員実施要 243, 245 1, 186, 206 34 163	GHQ 24 敷島紡績 17 自彊学院 15 島村商店 11. しまや足袋 9, 2 「商業組合法」改正 20 証券信託 29 商工省 148, 176, 187, 228, 229, 24 商工省令第三一号 18 商工省令第六二号 17 昭和毛糸紡績 29 職員令 2 シンガー裁縫女学院 8 シンガー社 15, 26, 33, 43, 44, 58, 61, 62 64-66, 68, 132 シンガー社製ミシン 103 62, 65, 6 11—16 6	22 57 22 88 90 93 7 7 82 94 81 80 82 84 84 86 84

31	65, 66, 95	大日本武徳会有馬支所 161
32—1	62	大日本武徳会兵庫支部(諏訪山武徳殿)
44—13 56, 58, 62	2, 65-67, 263	161
71—101	64	太平洋戦争 170, 181, 183, 223, 228, 292
71—1 62	2, 65, 67, 104	高井利一郎 16,74
71	67, 95	高野商店 264
95	68	龍田織工場 70
99—130	64	龍田謙也 16,70,74
辛亥革命	26	龍野中学校 159, 161, 162
「森林法」改正	296	田中静三 214, 256
ţ		田辺又右衛門 85, 87, 148, 155, 157, 159, 161-163, 166, 275
「ステープル・ファイバー等	昆田規則	谷健商店 269, 270
1207 270 277 171 01.	130	
角南勝太郎	264	5
角南周吉	198	中央製造配給統制会社
A H/D 日	130	175, 182, 214, 217, 219–221, 256
せ		中央配給統制会社 182, 214, 222, 227
成錦堂文具店	157	中国電気 294
背板兄弟商会	208, 261	中播繊維製品小売商業組合 215
西南戦争	24, 25, 31	長州征伐 24
盛武館	161	朝鮮銀行 293, 294
「繊維工業設備ニ関スル件」		戦矢シャツ 68-70, 173, 174
繊維需給調整協議会	180, 214	大阪本店 173
「繊維製品製造制限規則」	180, 214	表版年后 173 裁断部 69
「繊維製品配給機構整備要網」		東京工場 173
		東京支店営業部 173
「繊維製品配給消費統制規則」	85, 215, 219	#
		紫大件1] 173
133, 137, 141, 142, 174, 18 223, 227	5, 180, 221,	つ
-, -	00 100 010	つちや足袋 28
「繊維製品配給統制規則」 1		
「繊維製品販売価格取締規則」		
全日本既成服卸商業組合連合		- 壺坂政幸 209, 222 津村呉服店 113
全日本作業被服団体服工業組		
	211, 227, 255	津山足袋 113
全日本作業被服団体服工連	210, 267	7
全日本布帛ミシン裁縫工業組		NL #11 [7] #11 NF #11 7D 4D D11
\TTF IN A-Is	227	鉄製品製造制限規則 64
遷武館	161	٤
た		- - - - - -
W V III II I I W	2.2	東京柔剣道衣工業組合 271
第一次世界大戦	26	東洋染色 172
大日本製糖	293, 294	東洋紡績 172, 245
大日本国民服株式会社	173	天満工場 172
大日本武徳会 85, 87, 1	59, 161, 162	姫路工場 172, 225, 227, 245,

W. L LII	=0.4=0	1	
枚方工場	70, 173	0	
特免作業被服製造会社		是 図本七	0.01
豊岡中学校 豊岡縫工	157	信岡商店	261
	245	は	
鳥居運送店	73	配給消費統制規則	136, 138
な		配	80, 81, 97
内藤運送店	15 70 72 152	条 利 解 丁 播 留 吉	, ,
内膝建达后 中務省	15, 70-73, 153 22	海留音 浜松工場	45, 46, 48, 49 172
中塚祖中塚被服	174	林源吉	74
中物伙似	1/4	林宗兵衛	112
に		阪急電鉄	294
西尾清治	45	阪神急行電鉄	294
西尾宗七	74	播但鉄道	71-73
西村勝蔵	25	抽点处理	71 75
西村真次	237	ひ	
日独伊三国同盟	178	日置降介	163
日満亜麻績	294	佐路銀行	291. 293
日清戦争	31	姫路区裁判所	207
	, 170, 183, 228, 292	姫路師範学校	112
日東紡績	172	施路市役所	7. 82
日本帝国政府	170. 228. 308	姫路消防(署)	119
日本衣料配給統制会社		姫路消防組	82
日本織物雑貨小売商業		姫路信用組合	290, 291
日本毛織物元売商業組		姫路製紐	293
日本国政府	308	姫路被服工業組合	206, 207
日本護謨株式会社	120	姫路ミシン裁縫同業組	1合 201, 202, 206
日本製糖	293	百貨店及産業組合法	214
日本石油	294	兵庫県学童服卸配給組	l合 214
日本繊維工業株式会社	294	兵庫県学校服卸商組合	213
日本特免織物製造株式	会社 180	兵庫県既成服卸配給組	1合 213, 214
日本特免会社	224	兵庫県既成洋服卸配給	組合 214, 256, 259
日本内地莫大小統制株	式会社 180	兵庫県師範学校	247
日本被服株式会社	197, 261	兵庫県西部作業衣団体	
日本ミシン製造工業組	.合 64	兵庫県西部作業衣団体	服製造配給代行(会
日本ミシン製造社	64	社)	294
女嬬	22	兵庫県西部内地向被服	
ぬ		206, 208, 217, 219- 277	221, 226, 227, 255,
典縫司	22	兵庫県西部被服工業有	限会社
縫殿寮	22		221, 222, 227
終 司	22	兵庫県繊維雑貨卸商組	, , ,
縫部司	22	兵庫県繊維製品配給粉	
縫女部	22	2 O T A T T T T T T T T T T T T T T T T T	214. 221. 223. 294
Week All	22	兵庫県内地向布帛製品	, , -, -

21	9, 220, 256	本間藤吉	12
兵庫県農工銀行	294	*	
兵庫県播磨女子商業高等学校	244, 247	G.	
兵庫県服装雑貨卸商業組合	214, 257	舞鶴軍需部裁縫工場	241
兵庫県立明石女子師範学校	244	松岡呉服店	113
兵庫県立山崎高等女学校	247	松本呉服店	113
兵庫県連合会	210		11, 153, 157
兵庫県労働作業衣卸商組合 兵部省武庫司	214 25	丸合運送店 丸友商店	153 264
広島県被服工業組合	25 174. 175	人久団店 マルヤ	174
広島県布帛工業組合	174, 173	,	174
	4, 175, 193	み	
備後第一五被服有限会社	175	三重県大阪陸軍被服支廠学校	工場 247
	1.0	三重県女子師範学校	246
స్		三木定七	214
フォーエバー・トゥエンティ・	ワン	三木庄呉服店	113
(Forever 21)	3	三井鉱山焦媒工場	118
福助足袋	28, 198	三菱合資会社	154
福永義雄	220	三輪運動具店	157
富士社製(ミシン)95K-40	64	む	
藤田組	25	, , , ,	00
不二ミシン 伏見辰三郎	58 162	ムーンスター	28
	163 53. 54	め	
不二屋店	264	「綿製品制限規則	200. 201
藤原呉服店	113	「綿製品ノ加工制限ニ関スル作	
富士原文信堂	157	「綿製品ノ製造制限ニ関スル作	,
不遷流柔術	161, 163	1	79, 229, 271
不動貯金銀行	290	「綿製品ノ販売制限ニ関スル作	‡」 179, 229
武徳会兵庫県支部	163	‡)	
「布帛製品関係業者ノ企業整備			
件」	186, 229	桃山中学校	157
「布帛製品関係工業組合整備		森田裁縫工場	175
件」 174, 21. ブラウン、E.G.	5, 221, 229 23	森本六爾	237
ブラウン、E.G. ブラウン、S.R.	23 23	や	
ブリヂストン	8. 28	八尾中学校	161. 162
古着株仲間	23	八掛中学校(矢掛中学校)	157, 159
古手屋仲間	23	山形県師範学校	246
ほ		山田秀蔵	74, 75
は		山中清三郎(山中商店) 261, 2	
細井富太郎	185, 226	山村清助(山村商店、山村屋商	
「本省並陸軍諸官衙返納被服品		*	12, 159, 166
	25	山本小政 1	05, 106, 110
本田宗太郎	157, 158	l	

ゆ 「輸出綿製品配給統制規 ユニクロ	則」 180 3	陸軍被服廠大阪支廠 陸軍被服廠東京本廠 陸軍被服廠豊岡作業所 陸軍被服廠広島支廠	
ţ		131, 1	74–176, 193, 247
養老律令 横須賀鎮守府 吉植末吉	21 238, 239 161, 162	ろ ロシア革命 六角屋足袋	26 112
6)		わ	
陸軍省 陸軍被服廠 5, 7, 16, 64, 75, 76, 81, 88, 13 237, 279	176 25, 31, 33, 44, 55, 31, 171, 173, 176,	若林商店 早稲田大学史学科 渡辺辰五郎 渡辺被服	269, 270 237 24 174

◎著者略歴◎

岩本 直一(いわもと しんいち)

1970年7月7日生。奈良県橿原市出身。経済学博士(大阪市立大学・2010年3月)。 大阪府立大学経済学部満期退学後、法政大学通信教育課程を経て経済学学士(学位授 与機構)。大阪市立大学大学院経済学研究科前期博士課程および後期博士課程修了。 国立民族学博物館(総合研究大学院大学)特別共同利用研究員、大阪経済大学日本経 済史研究所研究員、追手門学院大学・大阪産業大学非常勤講師などを経て、現在、大 阪市立大学大学院経済学研究科特任助教、同志社大学経済学部嘱託講師、龍谷大学: **園田学園女子大学非常勤講師。**

主な業績

[単著] 『ミシンと衣服の経済史――地球規模経済と家内生産――』 思文閣出版、2014 年。

[論文・書評など] 「学術資料 戦前期ミシンに関する産業財産権――その一覧と傾向 ——|『大阪産業大学経済論集』第18巻2号、2017年3月。「書評 鄭鴻生著『台湾少 女、洋裁に出会う――母とミシンの60年――』」『週刊読書人』2016年12月9日号。 「ミシン国産化の遅延要因――特許出願の方向性に関連して――|『大阪経大論集』第 67巻2号、2016年7月。「近現代旗袍の変貌――設計理念と機能性にみる民族衣装の 方向——|『大阪経大論集』第66巻3号、2015年9月。「書評 パトリシア・リーフ・ アナワルト著・蔵持不三也監訳『世界の民族衣装文化図鑑1・2』『週刊読書人』 2012年1月13日号。「衣服用語の100年――衣服史研究の諸問題と衣服産業の概念化 ---- | 奈良産業大学経済経営学会『産業と経済』第23巻3 · 4号、2009年3月。

> 近代日本の衣服産業 -姫路市藤本仕立店にみる展開

2019(令和元)年9月20日発行

著 者 岩本 真一

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

装 幀 上野かおる (鷺草デザイン事務所)

印 刷 株式会社 図書 同朋舎 製本

© S. Iwamoto 2019 ISBN 978-4-7842-1981-0 C3033